



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ダリアのポット・ルート生産方法に関する研究 : 第II報 各系統・品種別によるポット・ルート生産について
Author(s)	明道, 博; 奥村, 実義; 蝶野, 秀郷
Citation	北海道大学農学部附属農場報告, 13, 29-33
Issue Date	1965-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/13283
Type	departmental bulletin paper
File Information	13_p29-33.pdf



ダリアのポット・ルート生産方法に関する研究

第II報 各系統・品種別によるポット・ルート生産について

明道 博・奥村実義・蝶野秀郷

I. 緒言

北海道におけるダリアのポット・ルート生産は春に種球の萌芽をさし、活着苗を秋まで鉢植え栽培することによって達せられるが、生産されたポット・ルートの塊根着生数および重量には、品種による差違がうかがわれた¹⁾。

一方、従来法によるダリア球根栽培においても品種によってその塊根形成量や塊根の形に差違があることは、古くから栽培業者間で経験されてきたことであり、このことは今日のダリアがいくつかの原種をもととして発達した園芸雑種であつてしかも系統によって原種の影響の度合が異なるものと考えられている点²⁾からも、充分可能性のあるものと考えられる。

さらに、輸出を目的とした球根生産にあつては種々な花型、花色、開花期の早晩性等が要求されたがって数多くの系統・品種の生産が行なわれねばならぬことは必定であるが、一方においては規格の統一が望まれるので、系統・品種を異にしてもそれらの球根が齊一なサイズ、形状であることが好都合である。

これらの観点から、ここでは現在一般に栽培されている8系統・51品種をえらび、前報の方法に従つてポット・ルート生産に関する試験を行ないその塊根形成量を系統・品種別に調査し、比較検討を加えた。

なお、この研究は文部省科学試験研究費による「輸出球根の栽培環境に関する研究」の一部として行なわれた。ここに関係当局に衷心より感謝の意を表する。

II. 材料と方法

供試した8系統(①~⑧)、計51品種はつぎの通

りである。

① 大輪カクタス咲き(10品種)

早生 インメンズ
マジックA
ゴールド・コイン
中生 エドナーデー
テレマーク
フリーデンスグルス
オクレー・チャンピオン
晩生 マナズル
ニュー・ルック
ファイガロー

② 大輪デコラティブ咲き(12品種)

早生 クロイドン・マスターピース
ブラック・アウト
ブレース
中生 モロベス・カーペサーター
メリー・エリザベス
パーシ・パールス
晩生 ロイヤル・トウール
クロイドン・サイクラメン
ポーター・パフ
ケルビン
バルガス・ガードナー
レッド・サリュー

③ 中輪カクタス咲き(9品種)

早生 マヨレイン
チップラー
デュッセルドルフ
新世界
あさひ
中生 ロゼラ
シレナ
オリーブ・コーム

- 晩生 フラウ・マルグリッド・ハーゼ
- ④ 中輪デコラティブ咲き (11 品種)
 - 早生 朝のかがやき
ロゼッセイ・レブラー
歌 椿
 - 中生 花 祭り
東 の 輝
デュエット
桃 の 光
天 真
 - 晩生 東 の 光
紫 光
花 笠
- ⑤ ボール咲き (3 品種)
 - ロージー・ドン
 - ボンネブリュー
 - グローアル・ド・リオン
- ⑥ ポンポン咲き (3 品種)
 - ゆ め
 - 紫 玉
 - ポーカーク
- ⑦ コラレット咲き (2 品種)
 - クレルデリユン
 - トラサックス
- ⑧ スーパー・トップ・ミックス (1 品種)
 - バンビーノ

これら各品種の前年産塊根を昭和 37 年 3 月下旬に温室内で催芽開始し、萌芽したものを 4 月下旬にさし芽した。

さし芽は「切り芽」によるよりも塊根形成量が多い「かき芽」²⁾を用いた。

活着苗は、ピート・モス 2, 川砂 1 (容量比) の割合で混合した用土を用い、育苗鉢 (直径 7 cm, 深さ 7 cm) に定植し、10 月 15 日に収穫するまで北海道大学附属農場花卉園において栽培した。なお、施肥はすべて化成肥料 (N 14・P 8・K 14) を用い、基肥として 1 鉢あたり 0.3 gr. を与えたほか栽培期間中 12 回追肥を行なった。

III. 試験結果

供試した各品種のさし芽苗によるポット・ルート生産状態を知るために、その塊根形成の状況と塊根着生数および重量を調べ、その結果を系統別にまとめて第 1 表に示した。

これによると、各系統・品種におけるポット・ルート生産はほぼ達成され、それぞれの着生塊根数・重量についても比較的斉一なものがえられている上に、慣行球根栽培法においては不整形球や織根性、小球性等の欠陥を有する品種でも、同様なポット・ルートがつくられている (図版 I-III)。

しかしながら第 1 表にみられるように、塊根形成を全うする株の歩留まりは、品種によって差違がうかがわれる。これを系統別にみると、大輪種と中輪種との間には差が認められないが、デコラティブ咲きはカクタス咲きよりも歩留まりがよく、また晩生種および中生種は早生種よりも歩留まりがよい (いずれも 5% 水準で有意差あり)。

すなわち、大輪および中輪種では、一般にカク

第 1 表 各系統品種別によるポット・ルートの塊根着生数および重量

系 統	品 種	供試数 (株)	収穫数 (株)	一株平均塊根着生数 (個)	一株平均塊根重量 (gr.)	備 考	
大輪 カクタス咲	早生	インメンス	10	9	2.3±0.15	15.7±2.61	
		マジック A	10	9	3.2±0.13	12.3±0.59	
		ゴールドコイン	10	9	3.7±0.33	26.2±3.33	
	中生	エドナーデー	10	9	3.3±0.30	17.9±1.39	
		テレマーク	10	10	3.8±0.28	21.0±2.07	
		フリーデンスグルス	10	7	2.8±0.24	6.0±0.49	
		オクレーチャンピオン	10	9	3.4±0.30	15.3±1.29	
	晩生	マナズル	10	10	4.6±0.33	26.1±4.48	
		ニユーリック	10	10	3.8±0.24	19.7±2.62	
		フィガロー	10	10	3.2±0.20	16.2±3.35	

系 統	品 種	供試数 (株)	収穫数 (株)	一株平均 塊根着生数 (個)	一株平均 塊根重量 (gr.)	備 考	
大輪 デコラティブ咲	早生	クロイドンマスターピース	10	8	3.8±0.24	12.0±2.87	
		ブラックアウト	10	9	3.3±0.15	18.9±3.33	
		ブレーズ	10	9	4.7±0.39	19.0±0.92	
	中生	モロベスカベサーター	10	10	3.6±0.26	21.5±1.61	
		メリーエリザベス	10	10	4.7±0.29	24.9±4.03	
	晩生	パーシパールス	10	9	3.1±0.23	14.1±4.25	
		ロイヤルトウール	10	9	3.5±0.16	10.9±2.57	
		クロイドンサイクラメン	10	10	4.0±0.28	19.5±1.64	
		ポーターパフ	10	10	4.6±0.15	26.7±2.58	
		ケルビン	10	10	3.6±0.26	19.1±3.48	
		バルガスガードナー レッドサリユー	10 10	9 9	3.4±0.28 3.5±0.27	13.5±1.70 8.8±0.68	
中輪 カクタス咲	早生	マヨレイン	10	7	2.1±0.03	4.6±0.37	小球性
		チップラー	10	9	2.9±0.23	10.1±1.91	
		デュッセルドルフ	10	10	3.7±0.30	21.6±3.85	
		新世界	10	9	3.9±0.29	26.8±5.32	
	中生	あさひ	10	9	2.7±0.16	8.4±1.70	不整球
		ロゼラ	10	9	3.3±0.21	13.1±2.56	繁殖わるい
		シレナ	10	10	3.1±0.23	15.9±1.96	小球性, 分球し 難い
		オーブコーム	10	10	3.1±0.27	16.9±2.35	
	晩生	フラウマルグリットハーゼ	10	9	3.4±0.37	11.9±2.29	不整球
	中輪 デコラティブ咲	早生	朝のかがやき	10	10	3.4±0.33	15.4±1.86
ロゼッセイレブラー			10	9	3.8±0.31	22.1±4.23	
歌 楯			10	9	2.4±0.16	6.7±1.34	
中生		花 祭り	10	10	3.9±0.43	14.1±1.16	
		東 の 輝	10	10	3.3±0.23	15.4±2.56	
		デュエット	10	10	4.1±0.23	29.8±5.01	
		桃 の 光	10	9	3.2±0.27	20.7±2.99	
晩生		天 真	10	10	2.8±0.25	9.8±1.02	
		東 の 光	10	9	3.0±0.21	14.2±1.83	繁殖わるい
		紫 光 花 笠	10 10	9 10	3.2±0.20 3.9±0.23	7.2±0.30 16.3±2.33	球がもろい 丸球になりやすい
ホー ル 咲	ロージードン	10	10	3.5±0.34	22.7±2.72	繁殖わるい	
	ボンネプリュー	10	10	4.6±0.22	12.0±1.40		
	グロアールドリオン	10	10	4.3±0.26	25.3±4.88		
ポ ン ポ ン 咲	ゆ め	10	10	4.1±0.32	17.4±1.14		
	紫 玉	10	10	4.0±0.25	14.3±2.38	クラウンが硬く て分球し難い	
	ポーカー	10	10	3.5±0.26	13.6±1.38	繊根性	
コ ラ レ ッ ト 咲	クレルデリユン	10	9	3.2±0.26	13.9±2.47		
	トラサックス	10	10	3.8±0.20	23.2±5.11		
スーパートップミック クス種	バームビノ	10	8	2.5±0.26	12.9±1.73	小球性	

タス咲きがポット・ルート生産能率が劣り、また開花期の早いものが同様にわるいことが認められる。

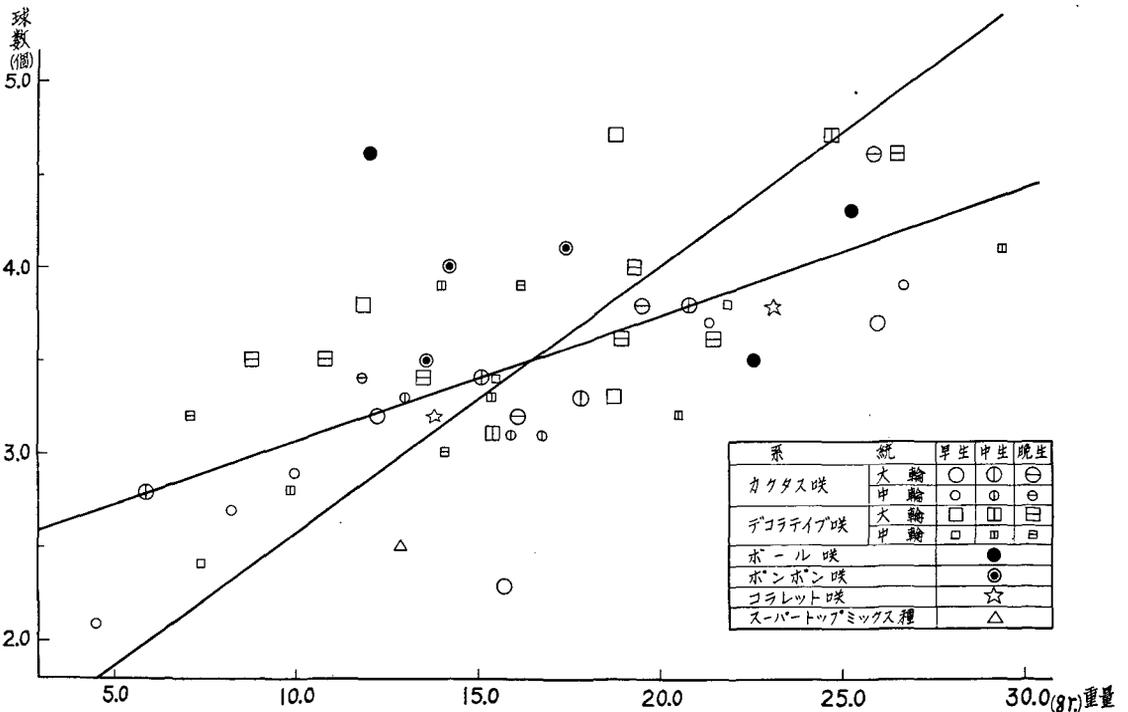
これを品種別にみると、供試 51 品種中全供試個体が塊根形成を全うしたもの 25 品種、塊根未形成株が供試 10 個体中 1 個体みられるものが 22 品種、同 2 個体ないし 3 個体みられるものがそれぞれ 2 品種となっていて、品種による差が認められ、フリーデンスグルス、マヨレイン (以上 10 個体中 3 個体が未形成)、クロイドン・マスターピース、バンビーノ (以上 10 個体中 2 個体が未形成) などは明らかに生産能率が劣るものと判断される (5% 水準で有意差あり)。

一方、形成されたポット・ルートの塊根着生数は、多い品種で平均 4.7 個 (ブレース; 大輪・早生・デコラティブ咲き)、少ない品種で平均 2.1 個 (マヨレイン; 中輪・早生・カクタス咲き) となっている。これを系統別にみると、大輪種と中輪種、開花期の早・中・晩生間には有意差が認められないが、大輪カクタス咲きが大輪デコラティブ咲き

よりも劣ることは確か (5% 水準で有意差あり) で、このことは従来のダリア球根栽培においても大輪カクタス咲き系統には収量の少ない品種が多いとされていることと同様な傾向を示している。

しかしながら、品種による塊根着生数の相違はかなり認められ、マナズル、ブレース、メリー・エリザベス、ポードー・パフ、ボンネブリュー、グロアール・ド・リオンなどでは着生数が多く、ついで、ゴールド・コイン、テレマーク、ニュー・ルック、クロイドン・マスターピース、モロベス・カーペサター、ロイヤル・トゥール、クロイドン・サイクラメン、ケルビン、レッド・サリュール、デュッセルドルフ、新世界、ロゼツセイ・レブラー、花祭り、デュエット、ロージー・ドン、ゆめ、紫玉、ポーカ、トラサックスなどでも比較的多い方であるが、インメンス、フリーデンスグルス、マヨレイン、チップラー、あさひ、歌椿、天真、バンビーノなどは塊根着生数は少ない。

つぎに、形成されたポット・ルートの塊根重量



第 1 図 鉢栽培法におけるダリアの系統・早晩生別による塊根形成 (1 株平均塊根着生数および重量)

は、もつとも大きい品種で平均 29.8 gr. (デュエット; 中輪・中生・デコラティブ咲き)、もつとも小さい品種で平均 4.6 gr. (マヨレイン; 中輪・中生・カクタス咲き) となっていて、その差は著しい。

この塊根重量の相違は、これを系統間および開花期の早・中・晩生間で比較しても有意差がみられないが、品種間でくらべると明らかに差が認められる。塊根重量が大きい品種はデュエットについて新世界 (26.8 gr.), ポーダー・パフ (26.7 gr.), ゴールド・コイン (26.2 gr.), マナズル (26.1 gr.), グロアール・ド・リオン (25.3 gr.), メリー・エリザベス (24.9 gr.), トラサックス (23.2 gr.), ロージー・ドン (22.7 gr.), ロゼッセイ・レブラー (22.1 gr.), デュッセルドルフ (21.6 gr.), モロベスカ・ペサター (21.5 gr.), テレマーク (21.0 gr.), 桃の光 (20.7 gr.) などで、このほか供試品種の大半はそれぞれ 10~20 gr. の塊根形成を行なっているが、マヨレイン (4.6 gr.), フリーデンスグルス (6.0 gr.), 歌椿 (6.7 gr.), 紫光 (7.2 gr.), あさひ (8.4 gr.), レッド・サリュウ (8.8 gr.), 天真 (9.8 gr.) などは塊根重量が著しく小さい。

これらの結果を総合して、系統および開花期の早・中・晩生別に塊根着生数とその重量との関聯を検討すると、第 1 図に示したように、塊根着生数と重量との間にはかなりの相関が認められる ($r=0.7005$) のは確かで、多くの場合塊根重量が大きければ塊根着生数も多い傾向を示している。

したがって、ポット・ルート生産にあつては、塊根形成の難易とその重量とによって品種の適否が検討されてよいものと思われる。

また、慣行球根栽培法においてみられる不整形球、小球性、繁殖不良等の品種特性は、必ずしもポット・ルート生産上のそれとは一致していないものと認められ、したがって従来これらの欠陥が

球根栽培上の難点とされてきた品種にあつても、ポット・ルート生産によれば、よく揃った規格の球根を生産することは可能である。

この場合、塊根形成そのものの難易および塊根形成量の多少は、品種によって差が認められるが、系統や開花期の早・中・晩性による差違は認められないので、各系統ごとに適合品種の選択を行ない、能率的に生産しうる品種を組合わせてゆくべきものと考えられる。

IV. 摘 要

1. ダリアの各系統・品種別によるポット・ルート生産の可能性を確めるために、8 系統・51 品種を用いてその塊根形成状態を調査した。
2. 塊根形成はいずれの系統・品種においても達せられたが、その難易、塊根着生数および重量は品種によって差違が認められた。
3. この差違は、系統や開花期の早・中・晩生によるものではなく、品種の違いによるものと認められた。
4. ポット・ルートの塊根着生数と重量との間には強い相関が認められる。
5. これらの結果から、ダリアのポット・ルート生産をすすめるにあつては、各系統ごとに適合品種を選択して組合わせることが必要で、これによって従来球根栽培法における難点を克服できる。

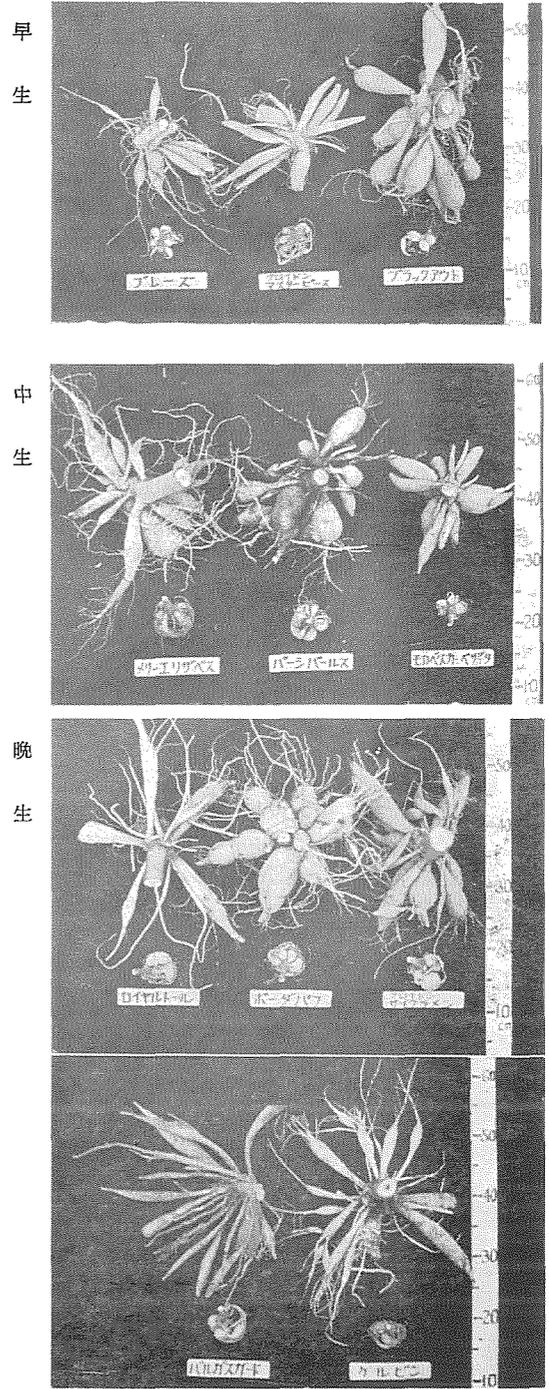
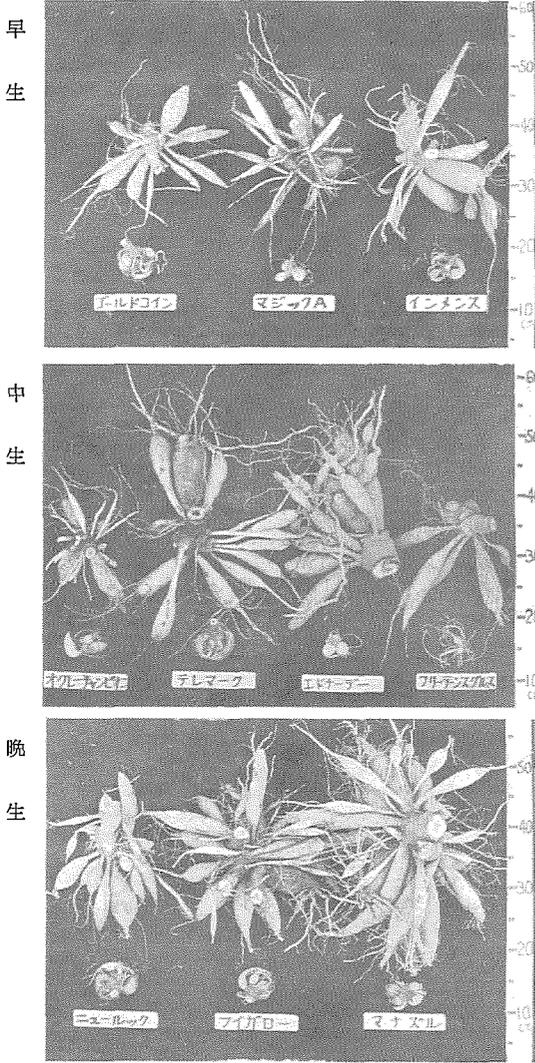
文 献

- 1) 明道博・奥村実義・蝶野秀郷 (1964): 北海道大学農学部附属農場報告, 12.
- 2) NEWTON, P. (1962): *Gardeners Chronicle* 152 (8).
- 3) 志佐誠・近藤典生 監修 (1957): 花と蔬菜の育種, 東京誠文堂新光社.

大 輪

カクタス咲

デコラティブ咲

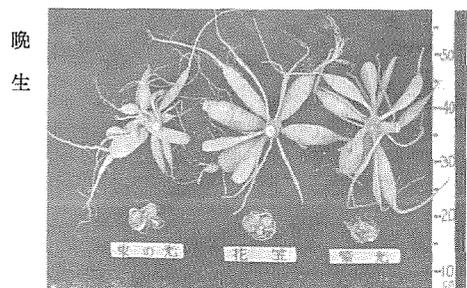
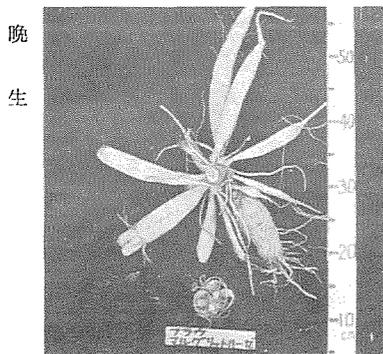
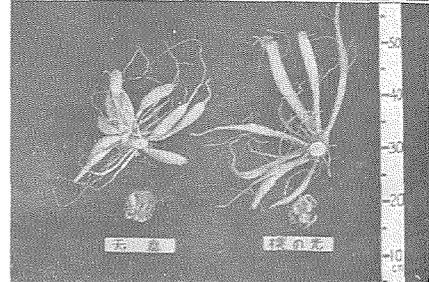
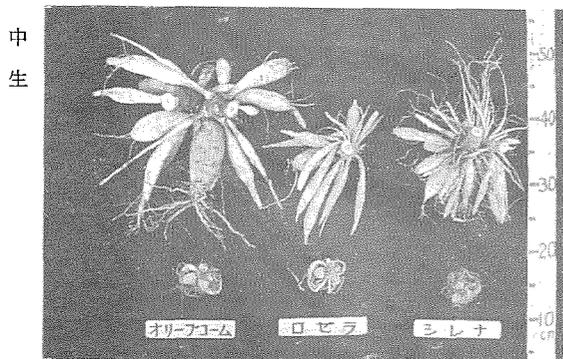
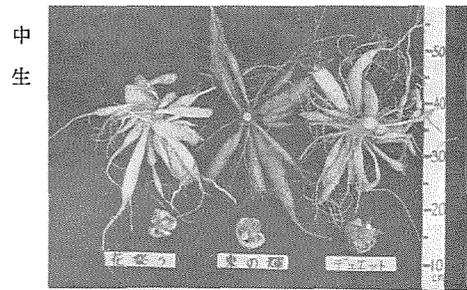
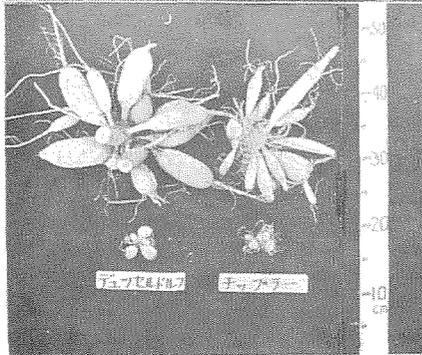
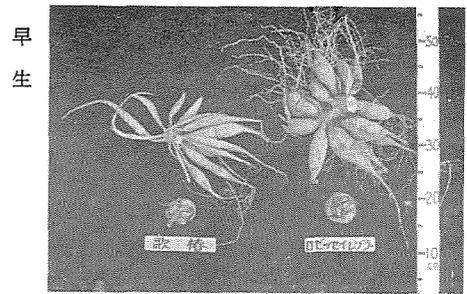
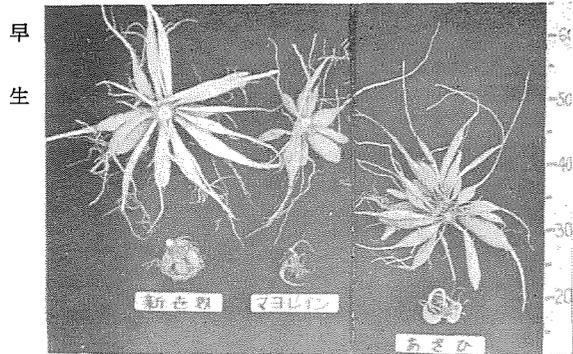


図版 I 大輪カクタス系及びデコラティブ系各品種の慣行栽培法 (上段) 及び鉢栽培法 (下段) における収穫株の形状

中 輪

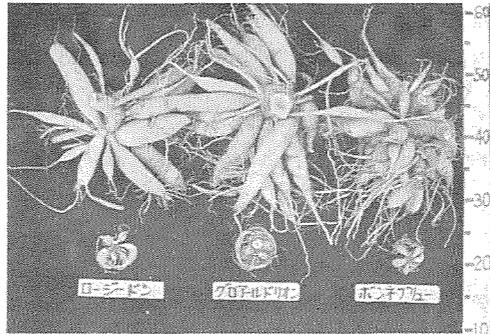
カクタス咲

デコラティブ咲

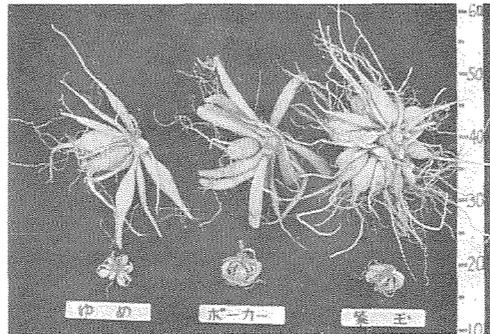


図版 II 中輪カクタス系及びデコラティブ系各品種の慣行栽培法(上段)及び鉢栽培法(下段)における収穫株の形状

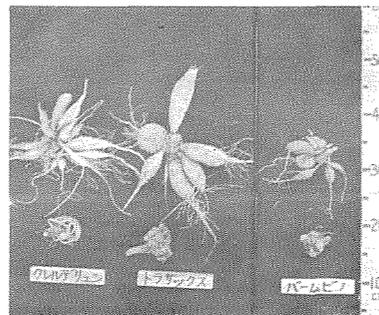
ボール咲



ボンボン咲



コラレット咲スーパートップミックス種



図版 III ボール、ボンボン、コラレット、スーパートップミックス系各品種の慣行栽培法 (上段) 及び鉢栽培法 (下段) における収穫株の形状